

次期選挙の議員定数を現状維持の１５名とすることに賛成する理由

橋本 武夫

議員定数を削減すると

- ①経費の節減になる。
 - ②意見がまとまりやすく、議事が簡潔に進められる。
 - ③意思決定が早くなり、効率的な議会運営ができる。
 - ④選挙において従前より多くの支持を必要とすることになり、それだけ広域的なものの考え方をするようになる。
- などのメリットがあるとされている。
- それに対して

- ①議会は地方公共団体の意思決定機関であり、議員定数を減らす議論よりも、議員の質をいかにして高め、民意の反映をどうするか議論の方が大切である。
 - ②議員の数が少なくなると少数派の意見が届きにくくなり、議会内で十分に反映されにくくなる恐れがある。
 - ③住民を代表して審議決定するには、それに相応しい数が必要である。
 - ④執行機関の活動を監視する機能が低下する。
 - ⑤少数だと、行政との「なれあい」が生じやすい。
 - ⑥常任委員会活動を停滞させ、議会審議を空洞化させる。
 - ⑦議員一人当たりの仕事の負担が増加して、さまざまな課題に対して質の高い対応をすることが難しくなる可能性があり、結果として政策の仕事や効果が低下する恐れがある。
- などの論もある。

岐阜県内の人口４万人以下の８市を比較してみると、議員一人当たり占める人口はほぼ２，０００人前後である。また、本市の一般会計に占める議会費の割合は、令和６年度０．７％と平均的であり、議員一人当たり占める議会予算も下位である。

本市議会において、定数が類似の他市と比較して多い訳ではなく、議会経費が多い訳でもない。

また、産業感謝祭で実施したアンケートの結果では、現状の１５人を妥当とする意見が多数である。

定数削減のメリット・デメリットと本市議会の現状を考え、総合的に判断すると、現時点においては、議員定数を削減するよりも、定数を維持して議員の質を高め、議決機関として民意の反映に努めることが市民の福祉の向上につながると考える。